

こちらが
じゅういちごうめの
“さくさく”です。



【前回までのヒストリー】
札幌国際芸術祭（以降 SIAF）2024 の
ディレクターや会期が発表され、作品の展
示会場や参加アーティストなど、新たな情
報も続々と公開されると、次なる芸術祭開
催への期待が高まっていた。そんな中、
SIAF ラウンジではこれまでの SIAF の
アーカイブを活用し、室内の壁面掲示板を
使った企画展示や、カフェの創作メ
ニューの開発に取り組んだ。

サイ アイ ア ラ ウ ン ジ の ヒ ス ト リ ー

vol.11

開催期
サテライト会場へ
2023 ➡ 2024

2023 年、5月6日 SIAF2024 の会期ま
で一年を切った頃、ディレクターの小川秀
明氏が掲げた「LAST SNOW」というテーマ
のもと、札幌市内各所では本祭に向けた試
験的な作品展示やプロジェクトが展開され
始めた。SIAF ラウンジのある札幌市資料館
は、SIAF2024 の開催時に、6つのメイン
会場とは別にサテライト会場として活用さ
れることが発表され、SIAF ラウンジはこれ
まで継続してきた取り組みを活かしつつ、
これら芸術祭本体が発信する情報に呼応し
ながら準備を進めていくことになった。
また、2020 年から継続している「SIAF ラ
ウンジオンライン」は、これまで SIAF に
関わりの深い方を中心にゲストをお招きし
ていたが、4 月からは SIAF2024 に参加す
るアーティストや、実施されるプロジェク
トに関わる方をご紹介していくようになった。
ゲストの中には札幌で作品を発表する
のは SIAF2024 が初めてという方もおり、
参加者にとって、まだ見ぬ作品への期待が

高まる良い機会になったのではないかと思
う。
SIAF ラウンジオリジナル動画コンテンツ
では、SIAF2024 の参加アーティスト石原
航氏が開発した、誰でもマンガが作れるデ
ザインツール「Conicaroid」や、アートユニッ
トのフジ森が開発した、オリジナルの雪の
結晶を作ることができるウェブアプリケー
ション「自分だけの雪の結晶をつくる」に、
ラウンジスタッフが挑戦するという紹介動
画を制作し、公開した。
また動画の紹介だけでなくとどまらず、「自分
だけの雪の結晶を作ろう」は、ラウンジ室
内にタブレット端末を用意することで、来
室者に触れてもらえる機会も設けた。操作
説明を書いたパネルスタンドをディスプレイ
横に設置することで、作り方を参照しやす
くし、初めての人が手を伸ばしやすくな
るよう工夫した。
2015 年の SIAF ラウンジ開設秘話以来、
一年毎のラウンジの歴史を紹介してきたフ
リーペーパー「sakusaku」は、本紙11号で
現在に追いつく形となった。SIAF2024 会
期には札幌市資料館に設けられる予定の
「SIAF アーカイブセンター」内で、紙面を
再構成した展示を行う予定となっている。
室内の壁面掲示板には「観る！つくる！
参加する！並べてみる SIAF2024！」とい
う展示を制作した。SIAF2024 各会場で見
ることができる作品や、体験できるプログ
ラム、ワークショップなど、企画時点で公
開されている情報を元に「観る」「つくる」「参
加する」という3つの関わり方で分類して
展示し、SIAF2024 への期待を膨らませて
もらうことを狙いとした。市内の小学校を
対象とするプログラムや、「ふむふむプロ
ジェクト」など、様々な世代をターゲット
にしている SIAF2024 の取り組みを、目で
見て楽しめるように工夫した。この展示も
先の sakusaku と同様、SIAF2024 会期中に
発展させた展示を行う予定である。

このほか、SIAF2024 のテーマである
「LAST SNOW」をイメージしたオリジナ
ルドリンクをカフェで提供したり、会期中
に販売するオリジナルグッズも準備してい
る。実に6年半ぶりに開催となる SIAF 本
番に向けて、これまで SIAF2014 から恒常
的な活動拠点として培ってきた経験を活か
しながら、着々と準備を進めている。
SIAF2024 の開催期間中、SIAF ラウンジ
自体は「SIAF カフェ」と呼び名を変え、他
にも札幌市資料館内を舞台に、過去の SIAF
で行われてきたプログラムやイベントを展
示する「SIAF アーカイブセンター」や、
「Conicaroid」などの参加型プログラムを体
験できるスペースも設置する。
SIAF ラウンジにとってもこの機会が、こ
数年の取り組みの集大成とも言える
かもしれない。最近では、来室された方が
タブレットで「雪の結晶」作りに動んだり、
コーヒークップを片手に SIAF のリーフレッ
トを眺めたり、話題にしている様子を日々
目にする。SIAF ラウンジが続けている取
組みが、少しでも SIAF への興味を抱きつ
かけや、入り口となってくれたらありがた
い。そして、SIAF2024 ではサテライト会
場として、小川ディレクターが掲げている
100 年後の札幌、未来を考えるための場と
しても機能することを願っている。
* 「自分だけの雪の結晶をつくる」
2023 年7月から10月にかけては、SIAF スクール
プログラムとして、本アプリケーションを使用し
た小中学校での出前授業や、無印良品でのワーク
ショップが実施された。また、SIAF のウェブサ
イト上でウェブアプリケーションを公開し、広く
一般市民から制作した「雪の結晶」を募集した。
市民から集められた雪の結晶は、SIAF2024 会期
中に、展示会場である「未来劇場」にて展示され
る予定である。

Café の
ちょっと
いい話？



Special

その1

人気の抹茶スイーツがこの冬
SIAFラウンジに初登場。

鮮やかな色とほろ苦さで
世間でも定番となった抹茶
スイーツ。ラテやシューク
リームなどは外国の方にも
人気ですよね。SIAFラウ
ンジでは、抹茶と相性抜群
なホワイトチョコをあわせ
た新作スコーンをご用意。
SIAF2024や雪まつりを
ぐるっと巡ったあとは、ぜ
ひSIAFラウンジへ。スコ
ーンのほどよい甘さが、凍え
た心と体をちょっと元気に
してくれるかもしれません。



その2

SIAFの開催テーマを表現して人気だった、
あのメニューたちが期間限定で復活！

創作ドリンクが2024
年1月20日から1メ
ニューずつ、再びSIAF
ラウンジに登場します。
今回も期間・数量限定
なので、最初で最後の？
コンプリートチャンス
となるかもしれません。
最新ドリンクである
SIAF2024「LAST
SNOW」と一緒にどう
ぞお楽しみください。

SIAF2014

「都市と自然」

SIAF2017

「芸術祭ってなんだ？」

SIAF2020

「Of Roots and Clouds」

SIAFラウンジとわたし。

SIAFラウンジの開設を計画する段階から関わって現在約9年の
年月が経つ。SIAF2014の本祭期間中に期間限定のカフェを設
置したことから数えたら10年！

すっかり年をとってしまった私は、正直細かいことをあまり思い
出せない。ただ、始めた当初、SIAFラウンジがまさるなホワ
イトキャンパスのような状態だったことは記憶に新しい。それが
気がつけば、芸術祭をはじめとする札幌のアート情報にあふれ、
カフェメニューもいつしか充実してきた。

この場所で働くスタッフのみんなが様々なアイディアを持ち寄
り、お客様の声を聞きながら、日々少しずつ変化をさせてきた結
果だと実感する。札幌国際芸術祭がいつまで続くかは未知数だが、
これからもSIAFラウンジスタッフのみんなと一緒に札幌で一番
平和な時間を過ごせる唯一無二の場所を作り出していきたいと願
う。

SIAFラウンジ運営管理者 漆崇博



第11回テーマ
「アートと
テクノロジーで
未来を考える」

SIAF2024 ディレクターの小川秀明氏はディレクターメッセージの中で、SIAF2024のテーマ
「LAST SNOW」は「未来に向けた創造と行動を呼びかけるもの」と語っており、プログラム全体を
通して見ても、「未来」はSIAF2024を貫く一つの軸となる言葉として捉えられるのではないでしょ
うか。そこで今回は、アートやテクノロジーを通して未来の社会がどのように変わっていくのか、そ
んな視点からおすすめる2冊の書籍を紹介します。

一冊目は『ART SCIENCE IS. アートサイエンスが導く世界の変容』。本書は「アートサイエンスに明
確な定義はない。」という言葉から始まります。アートやサイエンス、メディアアートといった領域
に囚われず、その境界線を行き来するような取り組みやキーパーソンたちに注目した一冊です。

次に紹介するのが『アルスエレクトロニカの挑戦』。アルスエレクトロニカは、一冊目に紹介した書
籍『ART SCIENCE IS.』の中でも、その先進的な取り組みが取り上げられています。オーストリアの
都市・リンツで展開されるアルスエレクトロニカの幅広い取り組みは世界的に注目を集めており、そ
れらの活動全体に共通するのが「アート、テクノロジー、社会」というキーワード。未来の社会を
作るためには技術と人間の独創力（＝アート）の両輪が必要であるという考え方は、テクノロジーの進
化が目覚ましい現代社会で、私たち人間がいかに暮らすかを考える上で必要な視点かもしれません。
小川ディレクターもアルスエレクトロニカフューチャーラボ共同代表として活躍されるお一人です。
SIAF2024を通して札幌に、そして私たちにどんな変化が起こるのか…。未来の社会を想像しながら
SIAF2024の会場を歩いてみたいですね。



塚田有那 編著『ART SCIENCE IS. アートサイエンスが
導く世界の変容』(ピー・エヌ・エヌ新社)



鷺尾和彦 著『アルスエレクトロニ
カの挑戦：なぜオーストリアの地方
都市で行われるアートフェスティバ
ルに、世界中から人々が集まるのか』
(学芸出版社)